

「フリースクール等に関するモデル事業」業務委託 調査報告書

令和6年 12月 20日

千葉県教育委員会教育長 様

所在地 千葉県船橋市宮本 6-4-1

郵便番号. 273-0003

事業者名.

NPO 法人 Free International School

代表者職・氏名 理事長 青沼弥幸

「フリースクール等に関するモデル事業」業務委託について、別添のとおり報告します。

【業務内容】

(1)フリースクール等と学校との連携

ア フリースクール等と学校との効果的な情報共有

フリースクール等への通所の実績や支援の状況等に関して、学校と定期的な情報共有を行い、相互理解を深めるなど、フリースクール等と学校との効果的な情報共有の手法(情報共有の手段、方法、頻度、様式等)について、実施した内容について最終報告いたします。

最終報告では、中間報告（2024/9/30）から最終報告（2024/12/20）までの期間での変化、また総括についてご報告させていただきます。

(1)-ア.フリースクール等と学校の連携.pdf 参照

No	連携機関	タイミング	方法	実施者	実施内容	最終報告実施内容
1	FIS ー保護者との連携	FISご入学前	対面	FIS理事長青沼 保護者	①ご入学前説明会(オンライン) ②ご入学前体験授業(リアル：1～5日) ③ご入学意思確認面談(オンライン) →ご入学意思確認後、各種お手続きや学校との連携についてお伝えしています。	*2025年から新規生徒（1年生）を若干名募集予定。 今後、説明会、見学会、個別面談等開催予定。
		FIS在籍中（随時）	対面 メッセージ	FIS事務担当 保護者	①随時：ご家庭の状況、及び地元小学校についての状況についての情報共有（FISとして対応の必要があれば対応をします） ②月2回：保護者勉強会での保護者との交流 ③半期ごと：個別面談（現状のお悩み相談や進路の相談）	①随時コミュニケーション ②2024/10～12月 勉強会参加者数 [10/4 8名, 10/18 5名, 11/1 7名, 11/15 8名, 12/6 10名] ③個別面談[次年度に向けて個別面談実施予定]
2	保護者 ー地元小学校との連携	FISご入学前	面談	保護者 担任、教頭（もしくは校長）	①地元小学校へ、FISご入学の意思をご報告 * 1.FISのスクールガイド、理事長名刺、FIS Flyerなどの参考書類も一箱にお渡ししています ②FIS入学後の小学校との関わりについてのご相談（登校日数や日々の小学校との関わりについてなど） ③FISの連絡先の提示（学校側からFISへご連絡をいただけるようお願いしております）	ー
		FIS在籍中（随時）	対面	保護者 担任、教頭（もしくは校長）	①定期的な学校訪問(子どもの状況に合わせて各ご家庭ごとに調整いただいております) ②スクールの活動内容についてのご報告 * 2.FISの日々の活動レポートを学校へご提出いただくことも可能です[Story Park レポート機能]	①②次ページ参照(更新済)
3	FIS ー地元小学校との連携	ご入学前	電話	FIS理事長青沼 校長、もしくは教頭	①FISのご説明 →スクールの概要と実施内容、出席振替の実績などについてもご案内、地元小学校が必要としている情報の提供を行います ②小学校との今後の連携内容について（出席日数や地元小学校が求めている情報などの共有） ③出席の振替についてのご相談など	*2025年から新規生徒（1年生）を若干名募集予定。 今後、説明会、見学会、個別面談等開催予定です。
		FIS在籍中（初期）	対面	FIS理事長青沼 校長、もしくは教頭	①校長先生のFIS視察 校長先生がFISへ視察にいらしてくださる場合もございます。その場合には、スクールで実施している内容等について、子どもの様子を説明しながらご案内させていただきます。	①2024/5/24(金)坪井小学校校長先生来訪
		FIS在籍中（毎月）	メール	FIS事務局→各学校	①出席提出[※3:出席表] ②毎月の授業スケジュールの提示[※4:Google Calendar]	③202412出席表&活動内容]フォルダ ④202410-12 10～12月出席表フォルダ内参照

◆最終報告のポイント

1. FISー保護者との連携

- ◇ 来年度の新入生の募集を開始
年明けよりご希望者との新規コミュニケーションが発生します。ご入学検討の段階よりこれまで通り、説明会、見学会、個別面談等開催予定。丁寧にコミュニケーションを図って参ります。
- ◇ 保護者とのコミュニケーションは良好
オンライン、オフライン含め、保護者とのコミュニケーションを円滑に行う仕組みを導入しているため、気軽にご相談いただける環境が作れています。子どもたちの変化があったときにも、すぐにご相談いただける状況となっています。

◆課題

- ◇ 保護者向け定期勉強会の参加者が固定されている
毎月2回開催している保護者向け勉強会はアーカイブ視聴もできるような仕組みになっており、いつでも学びを深められる仕組みとなっています。しかし、スクールに子供を預けている親の参加者が固定されており、特定の保護者のみが学びを深めている状態です。子どもたちを見ている、保護者の成長が子どもたちの成長へ直結するため、FISに関わる大人すべてが学びを深めていくことが、子どもたちの成長をより促していくことへ繋がっていくと考えています。

2. 保護者ー地元小学校との連携

- ◇ 学期ごとの評価(通知表)の情報を追記
基本的には、フリースクールでの実施内容についての評価はされておりません。公立小学校の出席がある子どもたちは、通っている時評価を付けてもらっている場合がありますが、FISでの活動に関しては、直接的には評価にはつながっていないとのことです。
- ◇ 坪井小学校に通う生徒に関しては、FISでの実施内容を提出しているため、

実施している様子（意欲など）は加味して、成績表を付けてもらっているとの回答はもらっています。

◆課題

- ☆ フリースクールの授業内容などは、学校と連携されることはなく、成績などもつきません。現時点では、フリースクールで実施した内容が、学校の成績になる仕組みがないため、評価基準などが難しいことは重々承知しておりますが、今後、多様な学びが認められていく中で、フリースクールの評価(子どもたちの情報)などが、子どもたちの、その先のキャリアへ生かされていく仕組みが作られていくことが課題と考えます。

3. FISー地元小学校との連携

- ☆ 来年度の新入生の募集を開始
新規入学生が決定しましたら、地元小学校との連携を円滑に図ってまいります。

イ フリースクール等における学習や活動内容が学校における適切な評価につながるための手法

① 学習指導要領に基づいた探求型カリキュラムの提供

1. 本校では、前後期制(4～9月/10～翌3月)を導入しており、12月20日時点では、以下の指定時間数の約5分の3程度の授業数を消化しております。

	1st Grade		2nd Grade		3rd Grade		4th Grade		5th Grade		6th Grade	
区分	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文
国語	209	306	209	315	209	245	209	245	260	175	260	175
算数	129	136	152	175	152	175	152	175	152	175	152	175
社会					57	70	57	90	96	100	96	105
理科					98	90	98	105	76	105	76	105
生活	162	102	162	105								
音楽	62	68	62	70	62	60	62	60	22	50	22	50
図画工作	101	68	114	70	114	60	114	60	114	50	114	50
家庭									75	60	75	55
体育	187	102	187	105	187	105	187	105	187	90	187	90
道徳の授業時数	38	34	38	35	38	35	38	35	38	35	38	35
外国語活動	73	-	146	-	146	35	146	35				
外国語									146	70	146	70
総合的な学習の時間の授業時数(IT含)					70	70	70	70	70	70	70	70
特別活動の授業時数(Theme含)	40	34	40	35	40	35	40	35	39	35	39	35
総授業時数	1001	850	1110	910	1173	980	1173	1015	1275	1015	1275	1015
総時間	750.75	637.5	832.5	682.5	879.75	735	879.75	761.25	956.25	761.25	956.25	761.25

各学年の時間割等は、中間報告より大きく変わりませんので割愛いたします。

* 一部オンライン授業を開催したものについては、授業アーカイブを提出いたします

1-イ. ①日本語授業アーカイブ一覧.pdf 参照

② 子どもたちの評価方法について

【子どもたちの観察による評価】

中間報告会でもお話しをさせていただきましたが、FISでは、日々の授業を子どもたち主体で運営しています。子どもたちが、テーマに沿って、自ら学びを深めていくスタイルです。言われたことをやるのではなく、自らが何を学ぶのか、テーマを理解し、調べ、率先して学びを深めていくのです。

一般的な評価は、教師側が提供する授業に対して、その内容が「できる／できない」という軸で評価をしていきますが、FISで行っている授業スタイルでは、その評価方法は使いません。なぜならば、大人が情報を提供し、その答えが「正しい／正しくない」の授業スタイルではなく、大人側は大きな枠のみを提供し、その枠内で子どもたちが何を学

んで行くか、子どもたちに委ねられています。

その中で、FIS の評価方法としては、観察による評価(子どもの情報を集める)という手法を採用しています。子どもたちの観察からは、子どもたちが何を理解し、何を習得したのか、また、何が理解できていなくて、どこが課題なのかを、大人側が見つけていきます。

結果、学習指導要領の中に定められている項目が「体得できている／まだまだ伸び代あり」のような形で、大人が理解することができ、仮に子どもがそこに対する理解が不十分であれば、そこを補足するなどのサポートを行ったりします。

最終的な着地としては、学習指導要領で定められている内容を理解し、「生きる力」として活用できるところまでを目指しているため、子どもたちは圧倒的に学びを深めていきますが、そこが、一般的な評価方法とは真逆のスタイル(先に情報を提供し、それが理解できているか／できていないかを判断するのではなく、子どもたちが自ら学びを深めた結果、どこまで体得しているかを判断する)ため、評価タイミングなどにタイムラグが生まれてしまいます。

最終的には、子どもたちは、学習指導要領に定められている内容以上のことを体得していきますので、その結果を見て、評価できる状態になるのではないかと考えています。

◆今後の課題・展開

直近、地元小学校との評価に関する連携は難しいかもしれませんが、フリースクールで実施している内容を踏まえ、その内容が、子どもたちの学力へ直結していることを示していくことができれば、学校側の評価にもつながっていくことができるのではないかと考えています。

しかし、坪井小学校の先生からいただいたフィードバックとしては、学習指導要綱の学年相応の内容でなければ評価は難しいとのコメントもいただいております。

小栗原小学校の校長先生からも、数値で評価することができないものは評価できない

とのコメントもいただいております。

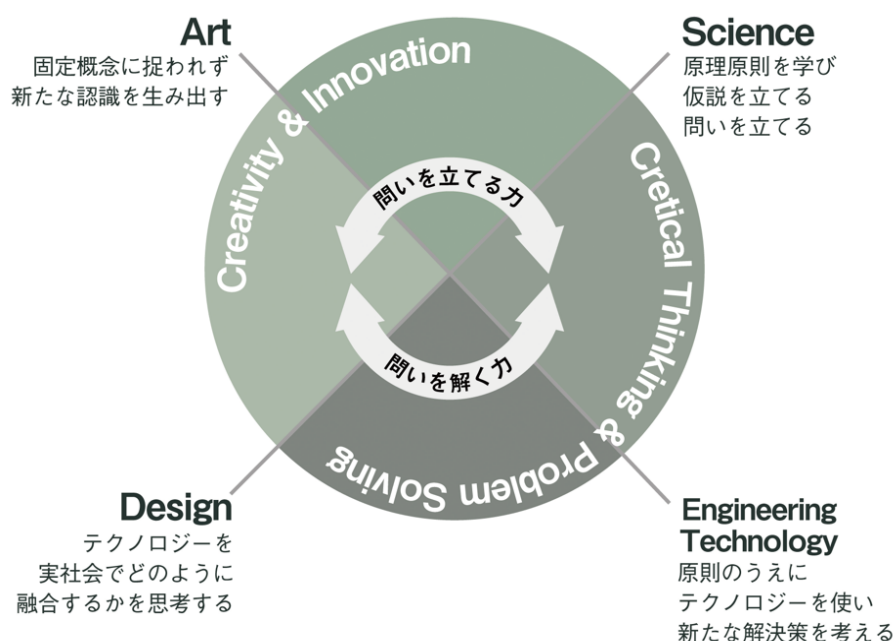
評価軸が違う中での評価は、やはり難しさを感じますが、FIS では、スクール内で実施していることなどを、保護者の方々を通じて継続的に学校側にもお伝えし、スクールでの活動内容について理解をしていただくことを目指して参ります。

③ これからの時代を生き抜く教育の提供

FIS で提供している学びのフレームワークに基づいた学習では、「今を生きる力」と「未来を生きる力」の2つを育むことを目指しています。「今を生きる力」では、先にも述べる「衣」「食」「住」と共に、自立から始まり、仕事、経済までを積み上げることを目標としています。



「未来を生きる力」では、下記フレームワークに基づき、これからの時代を生き抜く教育を提供して参ります。



日々の活動では、特別活動や、テーマアクティビティなどを通じて、新しい教育スタイル（アクティブラーニング、個別最適な学び、協働的な学びなど）を行っております。

②でもお伝えしておりますが、通常の授業以外（特別活動等）でも、子どもたち主体で学びを深め、どんどん新しい学びが生まれていきます。それらに対しても、【子どもたちの観察による評価】を採用し、子どもたちの学びに対する評価（子どもたちの情報を集めること）を行い、子どもたちの成長を促しております。

FIS のテーマアクティビティ[衣・食・住]に該当するプログラムについては次項にて詳細をご覧ください。

(2)フリースクール等と学校・教育委員会との協力による児童生徒の社会的自立に資する取組

ア. FIS のテーマアクティビティ[衣・食・住]に該当するプログラムについて

イ. FIS は平日週 5 日、朝 8:30~15:30 まで開校

上記、ア、イの内容において、中間報告以降、最終報告まで間に実施した下記プログラムについてご報告させていただきます。

[2-ア.テーマアクティビティ実施内容]

No	自然体験等プログラム名	実施期間	日付	最終報告実績
1	畑作業	通年	毎月 2 回水曜日開催	毎月開催中
2	夏期海プログラム(海)	6~9 月	期間内第一水曜日	2024/7 開催済
3	夏期海プログラム(プール)	7~8 月	8 月最終週	2024/7 開催済
4	家づくりプロジェクト (~12 月)	9~12 月	週末活動他	2024/10~開始
5	遠足山歩き(~3 月まで)	10~翌 3 月	期間内第一水曜日	2025/1~開始予定
6	FIS Festival [文化祭]	10~11 月	10 月~準備期間 11/5-8 事前準備 11/9, 10 開催	2024/9~準備実施 11/9, 10 開催
7	工場見学 1 [石井食品]	10 月	10/3(木)13:00-	2024/10 実施済
8	[New]稲刈り	10 月	2024/10/21(月)	2024/10/21(月)実施
9	工場見学 2	2 月	2 月水曜日 (仮)	来期へ持ち越し
10	[New]職場体験プログラム	2 月	2025/2/17(月) 実施予定	実施予定

青: 中間報告までに実施済(今回の報告外)

オレンジ: 中間報告以降最終報告までに実施(今回報告対象)

白: 今後実施予定

グレー: 来期へ持ち越し(スケジュール変更)

*実施内容報告につきましては、別紙[2-ア.テーマアクティビティ実施報告]に活動動画等のリンクを添付しておりますので、そちらからご参照ください。

オ.FIS では、子どもたちの社会的自立に資する取り組みについて
[(2)-オ.社会的自立に資する取組[最終実績報告].pdf]参照

(3)不登校児童生徒の教育ニーズとフリースクール等の現状に関する課題

【支援ニーズ調査概要】

FIS に在籍する生徒、及び、保護者に向け、標題の件について 2024/11 にアンケート調査を実施。以下、アンケート調査の結果のポイントと考察を報告いたします。

- * 個別のアンケート結果については、[アンケート【生徒回答】記名なし]フォルダ参照
- * 具体的アンケート調査内容は、以下 URL を参照

<https://x.gd/LeXXD>

◆前提条件

- ・基本的には子どもたち本人が回答(全 10 名回答)
- ・低学年(特に1年生 3 名)は、子ども本人が回答を完結できないため保護者が支援している(その場合は、子どもの意思が 100%反映されておらず保護者の意向が含まれる可能性がある)

◆考慮事項

- ・過去との比較は難しい
- ☒ 問いの中に過去との比較(変化を問う)質問が多数出てくるが、子どもたちは今を生きているため、子ども自身が過去との比較をすることは難しい。
 - * 客観的に子どもたちを見ている立場としては、中学年以上の子どもたちは大きな変化を遂げていることが明らかにわかるが、子どもたちとしてはその変化を記憶している訳ではない。
- ☒ 1年生に関しては、公立小学校に通う経験がほとんどなく FIS を選択しているため以前との比較が難しい場面がほとんどである。

以上のことを踏まえた上で、以下アンケート結果についてのサマリと考察を報告いたします。

●調査サマリ

① FIS(本フリースクール)通所への満足度:100%

全ての子どもが、とても満足(90%)、満足(10%:1年生回答)と回答。

FIS への全体の満足度の高さを示している。

主な理由としては、毎日楽しくスクールに通える、自分のやりたいことが思う存分やれることなどが挙げられている。具体的な理由の回答がない子どもたちも、FISに通う前は、学校に行きたくないと感じていたり、頑なな態度をとっていた子どもたちが、毎日FISに楽しく通ってくれていることは、子どもたちにとっての大きな変化であり、FISが子どもたちにとって大切な場所となっていることがわかる。

②通所前と通所後の変化

通所前と通所後では、体力面、学習面などの項目において変化を感じている。特に興味深いのは、学習面、学びへの意欲の変化だ。

フリースクールは、一般的には、学習面に不安を抱えている保護者が多いのが現状ではないだろうか。しかし、FISに通うことにより、80%以上の子どもが公立小学校に行くよりも学びへの意欲が変化(向上している)と答えている。(残り20%のうち1名は1年生のため、比較対象がない状態)以前より、楽しんで学びに向かうことができ、様々なことへの興味関心を深めていることがわかる。

③なぜFISを選んだのか？

FISが最も力を入れている2つの項目(子どもへの対応と、カリキュラム)が選んだ理由となっていた。スクールとして伝えたいことが、十分に子どもたちに伝わっているように感じる。ただ、こちらも選んだ当初のことを子どもたちが覚えているわけではなく、現状として「なぜFISを選んでいるのか？(なぜFISに通っているのか?)」という問いに対する答えと捉える方が自然だと感じる。

④ FIS に望むこと:「場所」

一方で、子どもたちが FIS に望むこととしては、「場所」の問題が1番大きいようだ。

FIS に通学している子どもたちは、遠方から通っている子どもたちが多く、自分の家の近くに FIS があることを望んでいるようだ。

子どもたちにとって、通学時間は大きなハードルであり、送迎の問題でスクールに通うことができない子どもたちも多い。各地域で、子どもたちが通いやすい距離に FIS のような環境が広がっていくことが、子どもたちにとっては最も望ましいのではないか。

また、FIS は、未就学児～6年生の多学年が一同に集っているが、十分に広いスペースを確保できているわけではない。入れ替わり立ち替わりで時間を調整するなどして、狭いスペースでなんとかやりくりしている状況である。そのため、子どもたちにはもっと十分なスペースを提供することができれば、より学びの質も上がってくるように感じている。

場所に関しては、フリースクールを運営する上で、最も大きな課題の一つである。

こちらの課題に関しては、(5) その他<課題1>にて詳しく記載するため、そちらを参照いただきたい。

⑤ 一般的なフリースクールに望むこと

1位「子どもたちへの対応」

2 位「スタッフ」

FIS に求めていることが「場所」だったこととは異なり、子どもたちが一般的なフリースクールに望んでいることは、子どもたちに関わる周囲の大人の存在のようだ。子どもたちにとって、関わる大人は非常に大きな存在であり、大人次第で、子どもたちの環境が変わることを、よく理解していると感じる。本校への要望では、これらの項目が上がってこなかったことは、子どもたちに関わる大人が十分に子どもたちに対して安心感を与えられているということではないだろうか。

子どもたちが安心して集う場所を作っていける大人の存在が不可欠であり、そのような大人が増えていくことが、子どもたちの未来に繋がっていくのだと感じる。

⑥ 進路希望

生徒たちからは FIS 中学部を作ってほしいとの要望が挙がっているが、現状、5～6 年生に対しては、FIS 中学部は作らないと伝えているため、5～6 年生の回答は、現実的な回答（未定、公立の中学校、私立の中学校）となっている。

一方で、4 年生以下の子どもたちは、FIS 中学部への進学を希望する声も挙がっている。

1 年生は、まだ先の話であるため、未定との回答となっている。

FIS 中学部の設立が望まれていることもわかった上で、子どもたちの未来を作っていくために、今後どのような選択をしていくかは、スクールとしても判断が求められる。

学童期から青年期へ成長していく子どもたちにとって、本当に必要な環境はどのような環境かを考えた上での決断が迫られるため、現状として、FIS としては非常に悩ましい選択である。

卒業後の進路に関しても、FIS としての今後の方向性を検討しているため、その詳細を (5) その他〈課題 2〉に記載するため、そちらを参照いただきたい。

◆総括

FIS が学びにコミットしているスクールであることが前提ではあるが、子どもたちは FIS の環境を通じ、素晴らしい成長を遂げている。子どもたちは、本来学びの意欲に溢れている。学びの環境があれば、子どもたちの学ぶ意欲はどんどん向上していく。

今後、子どもたちが本来持っている学びの意欲を、どんどん広げていける環境を増やしていくことができれば、不登校の子どもたちも、学校に楽しく、生き生きと通い、学力も向上していける環境を作っていくことができるのではないかな。

不登校者が鰻登りの昨今、“質”の高いフリースクールを広げていくことは、優先して取り組むべき課題であると考えます。そのための、仕組み作りと、継続してフリースクールを運営していける人材が現れていくことは、非常に大きな課題である。

(4)「不登校児童生徒の保護者のニーズに関する調査と課題の分析」

【支援ニーズ調査概要】

FIS に在籍する保護者に向け、標題の件について 2024/11 にアンケート調査を実施。

* 個別のアンケート結果は、[アンケート【保護者回答】記名なし]フォルダ参照

* 具体的アンケート調査内容は、以下 URL を参照

<https://x.gd/N9TPJk>

◆前提条件

・保護者 14 名回答(父親:6 名、母親:8 名)

*必ず生徒1人に対しどちらかの保護者は回答している状態

*きょうだいがある場合には合わせて回答している場合がある

◆考慮事項

・1年生に関しては、公立小学校に通う経験がほとんどなく FIS を選択しているため以前との比較が難しい場面ある

・代表青沼と青沼夫も回答している(青沼:子ども2名分、夫:2人分まとめて1回答)
→自分達で立ち上げをおこなっているため、以前との変化はない場合がある(立ち上げ時から現在の考え方と変わっていないため)

以上のことを踏まえた上で、以下アンケート結果についてのサマリと考察を報告する。

◎調査サマリ

①FIS 通所前と通所後の変化

◇ 保護者の精神的な変化、子どもの学習状況について大きな変化を感じている。
子どもたちのアンケート結果でも述べたが、特に、学習状況(興味関心を持つ領域・内容)では、100%の保護者が変化を感じている。学校に通っていた時は、嫌いや苦手だと感じていた教科でも、FIS での勉強を通じて、好きになったり、得意だと感じたり、子どもたち自らが意欲的に学習に取り組む様子が報告されている。

前述したが、フリースクールは、一般的には、学習面に不安を抱えている保護者が多いが、子どもたちは、FISに通うことにより、より意欲的に学びに取り組み、家庭でも意欲的に学ぶ様子が報告されている。

◇ 家族との関係性

注視しておきたいこととして、家族(親族を含)との関係性が挙げられる。

子どもたちをフリースクールに通わせることを、仮に両親が決断したとしても、祖父母含め親族の理解を得るのが、なかなか難しい状況もある。

一般的には、通常の学校に通うことが正しいとされる中で、祖父母含め、親族の理解を得ることは、まだまだ難しい状況のようだ。

②現状の不安について

◇ FISの学びに対する不安

①の通所前と通所後の変化で、精神的にも学びの意欲等についてもプラスの変化を感じている一方で、FISの学びに不安を持つ保護者も居る(約35%)。主には、一般的な学びとの違いに不安を抱えているようである。

こちらの内容(FISの学びの本質と、現状の一般的な学び、教育)については、定期開催している勉強会にて、保護者の方へも情報発信をし、学びを深めてもらっており、勉強会へ参加いただいている方々からは、学習面に関する不安は「ほとんどない」「全くない」を選択いただいたが、勉強会へご参加されていない方々を中心として「少しある」「とてもある」の声が挙がっていた。こちらは、継続して今の時代の流れと、今後必要となる学びについて、継続して情報を発信し、子どもたちの可能性を広げ、保護者の方々の理解を得ていくことが課題だと考える。

◇ 進路に関する不安

一方で、中学以降の進路については、約64%が「少し不安」「とても不安」を抱えている。これは、FISが設立してまだ日が浅く、中学校への進学実績がないことが、大きい要因である。現時点では、FIS中学部の設立予定はないため、必ず外部の機関へ通学する必要があるが、そのルートが明確に見えていないため、十分な情

報提供ができていない。今年度、初めての卒業生を輩出するため、その進路により、新たな情報提供等をしていく予定である。

進路についての課題は(5)その他〈課題2〉にも記載するため、そちらを参照いただきたい。

③フリースクールに通わせる際の課題:「費用」

- ◇ 最も選択項目が多かったのは「費用」:全員が選択している
- ◇ 最も課題と感じる点では、費用面はもちろんだが、カリキュラムやスタッフ等、子どもたちの学びの環境面に関する課題が重要視されている。やはり、子どもを通わせる上で、様々な点における「信頼」が費用に大事である。

④学校との連携について

- ◇ フリースクール側に望むこと、地元学校に望むこと、双方に、出席扱いとそれぞれの活動内容の共有。それぞれでの活動の様子を、それぞれが知ることができることが求められている。
- ◇ フリースクール側に臨むこと:フリースクールでの活動の様子の共有
→こちらに関しては、保護者側からレポート提出をしていただいて良い旨お伝えしていますが、アンケート結果を見るとそこへの認知(もしくは実施)が不十分な可能性が見える。改めて、保護者の方々へ学校との連携についてお伝えしていく。
- ◇ 学校側に臨むこと:通常FISに通っている場合には、公立小学校への出席頻度が下がるため、いつ登校しても過ごしやすい雰囲気を作っていただけることが望ましい。各家庭が臨む連携を取ることが望まれているので、学校側と家庭のコミュニケーションが必要となる。

⑤FIS に望むこと

- ✧ 国の仕組みとしての補助金(前述③)
- ✧ 立地: (5)その他 <課題 1>に記載
- ✧ 進路: (5)その他 <課題 2>に記載
- ✧ 継続性(5)その他 <課題 3>に記載

⑥一般的なフリースクールに望むこと: “質”が問われている!

- ✧ 今、フリースクールが次々と立ち上がっているが、利用側としては、大事な子どもを預ける施設であるため、“質”がなければ安心して子どもを預けることはできない。
- ✧ フリースクールの“質”についても、FIS の観点からの課題を(5)その他 <課題 3>に記載するため、そちらを参照いただきたい。

◆総括

FIS に通う保護者の皆様は、本当に協力的で、子どもたちのことも最優先に考える方々が、教育の“質”を求めて、設立したばかりで実績もない FIS に、高い費用を支払い通っている。それは、不安も大きい選択だということが、改めて明確に示された。まだまだ社会では、オルタナティブ教育が一般的でない中で、先の見えない不安を抱えながら、子どもたちの“今”の笑顔や、意欲、やる気ということを承認し、FIS を信頼し、大切な子どもたちに、新たな教育の機会を提供してくれている。

保護者の皆様のニーズは、子どもたちの学びの場の“質”であり、関わる大人の“質”。そして、“今”を超えた先(近くは中学校)の未来にも安心して送り出せるルートが見えていることが、保護者の方々の安心につながっていくことは、間違いない。

そのために、FIS ができることは、この先の可能性のルートを切り開いていくことであり、来年初めての卒業生を出す中で、卒業後のルートを明確に示すことができることができれば、一つ、安心材料にもつながっていくと考える。

(5) その他

アンケート結果を受けて、いくつかの現状の課題が明確になりましたので、課題に対する FIS としての見解をこちらに述べさせていただきます。

◆課題①【場所の問題について】

(3) 不登校児童生徒の教育ニーズとフリースクール等の現状に関する課題 ④

(4) 不登校児童生徒の保護者のニーズに関する調査と課題の分析 ⑤

フリースクールを始めるにあたり、まず初めにぶち当たる課題が「場所」の問題であり、その点について触れておきます。

以下3点が、フリースクールが抱える、場所に関する大きな課題です。

①フリースクール事業を許可してくれる場所を探すことが困難

フリースクールは、子どもたちが集う場所です。そのため、アットホームな場所が望ましいですが、通常の家タイプは、目的が住居ではないため、大家さんからの許可が降りない場合がほとんどです。事務所タイプの賃貸を借りようとしても、子どもたちが集う場所の場合には、騒音問題などから周囲への理解を得ることも難しく、そもそも、フリースクールを始めたくても、スクールを開けられる場所を見つけることが難しいのが現状です。

②立地の問題

子どもたちは遠方から集まることが多いため、アクセスが良い場所が求められます。

(ここがアンケート結果にも出ていたポイントであり、集客にも直結します。)

特に、船橋のように、ある程度都会の場合には、電車での通学がメインとなるため、駅からのアクセスが良いところが求められます。しかし、駅近くで、十分な広さがあり、子どもが集まることが許可され、近くに公園があるなどの条件を満たすことができる場所を探すことは、かなり難しいのが現状です。①同様、物件を探し当てることが、そもそも難しい状況です。

③家賃の問題

完全民営で行っているため、家賃(固定費)の負担が大きいです。仮に規模を拡大し、定員を増やしたいと考えた場合、広い拠点が必要となりますが、引越し費用、敷金、礼金、仲介手数料なども全額負担となるため、一度借りた拠点から転居することは、なかなか難しいです。

現状は、自宅開放などでフリースクールを開催されている方々も多いですが、自宅開放の場合にもたくさんの課題があります。

例えば、

- ・自宅に十分なスペースがあること
- ・規模の拡大は難しいこと
- ・家族の理解が得られている必要があること
- ・家族が感染症になった場合はスクールをお休みする必要があること

などなど、固定費は削減できますが、それ以外にもクリアしなければならない問題が多数あります。

◆解決案

解決案としては、現状使われていない場所などを有効活用して、子どもたちの学びの場に転換していける仕組みなどができていくと、よりフリースクールの活動が広がっていくのではないかと考えます。

固定でスクールを運営できる場所を借りられることが望ましいですが、現状すぐにできそうな対策としては、行政との連携を行い、公民館や、公的場所で空いている場所を、子どもたちのために学びの場に変えていく仕組みを実現してければ、不登校の子どもたちの受け入れ先の強化にもつながっていくと確信しています。フリースクールの展開において、場所の問題は大きな課題の一つであるため、この問題を解決する仕組みを構築していくことができれば、より子どもたちの学びの場が広がっていくことと思います。

◆課題②【卒業後の進路の問題について】

(3) 不登校児童生徒の教育ニーズとフリースクール等の現状に関する課題 ⑥

(4) 不登校児童生徒の保護者のニーズに関する調査と課題の分析 ②⑤

現状 FIS としては、小学校の位置づけとしてスクールを開校しているため、6年生で卒業の流れとなっています。それは、小学6年間のカリキュラムを元にスクールを設計しており、中学校となると、また新たな義務教育の事業領域の拡大となるため、現状としてはサポートが難しいです。そのため、4年生の時点で、公立中学校への進学希望か、受験希望かをご家族で相談してもらい方向性を決めてもらい、その方向性に合わせてサポート体制を検討しています。

現状、私たちが取り組んでいる対策としては、以下のような取り組みがあります。

【公立中学校に行くことを希望している場合】

◆ 中学校に向けた準備授業の導入(5,6年生向け)

現状は日本語(国語)の取り組みを導入しており、中学の学びに備えています。

FIS の授業で取り組んでいる内容の一部は、中学の学習指導要領の内容に含まれる内容です。導入した理由は、FIS で学びが楽しい！と感じて学んでいる状態から、中学校に上がった途端、勉強がつまらなくなってしまうと勿体無いので、事前に中学校で実施する内容を先取りし「楽しい！」と感じながら授業を受けもらうことを目指しています。中学に上がったときに会える学びが「知っている」と思える状況を作っておくことにより、楽しかった授業を思い出しながら中学での勉強にも臨んでほしいと考えています。

◆ 英語への取り組み(来年 2025 年度から導入予定:小4～)

日本語同様、FIS で楽しく外国語を習得している状態ですが、中学校に入った途端英語が苦手となるのは、勿体ないため、事前に中学校を想定した状態での英語授業を導入予定です。中学校の授業を受けた時点で「わからない」が先行するのではなく、「わかる」状態を作っておくことにより、子どもたちの英語に対する苦手意識を予防する想定です。

【公立中学校に行きたくない場合】

FISに通っている生徒の場合には、公立中学校への進学を望まない子どもたちも居ます。その場合は、以下のようなサポートを行なっています。

◆ 保護者へのサポート

4年生の時点で面談を行い、中学校の進路についての希望を伺います。そこで、受験を希望されるご家族については、4年生のうちから希望中学校の情報収集を促し、見学等をお願いしております。

志望校が決まった時点で、どのような対策が必要かを相談し、FISの授業の流れを鑑みながら、個別対応にて受験対策を少しずつ取り入れていきます。

◆ 受験に対する取り組みサポート

塾などには行かず、ポテンシャルで受験対策をしていくことを推奨しています。

詰め込み型ではなく、時代の流れを読んだ、今後生きて行くために必要となる力を中心として伸ばしていく指導をしています。

FISで学んだことを活かして受験できる学校を選択し、その学校に対する対策をし、受験に臨むことを推奨しています。

FISで学んだことを活かして受験できる学校とは、これまでの学びのスタイルと親和性が高く、FISで楽しく学んでいたように、中学校でも楽しく学びを続けていける環境を選択するということです。

◆課題③【学びの“継続性”と“質”について】

(4)不登校児童生徒の保護者のニーズに関する調査と課題の分析 ⑤⑥

「教育」は、継続性が最も大切であると考えています。フリースクール(オルタナティブスクール)を運営し、子どもたちを受け入れ、教育を提供するということは、そこに集う子どもたちの未来を担うということです。継続した学びがなければ、そこに集う子どもたちの未来は作ってはいけません。フリースクール(オルタナティブスクール)は、一過性の

ものではなく、継続性を持って運営することができて、初めて子どもたちの学びの場として価値が提供できます。この継続性を担保することは、非常に重要かつ、難易度が高いことでもあります。フリースクールが継続性を持って事業を展開していくための3つの課題を、以下に提示いたします。

①費用の問題:教育は無料で受けられるものという概念

文科省の調査によると、フリースクールの平均費用は、入会金が約5万3,000円、授業料が月約3万3,000円とされています。なお、FISは月額12万円程度の費用をお支払いいただいています。つまり、実際は、もっと安価でサービスを提供している団体がほとんどです。

フリースクールの開校時間は、スクールにもよりますが、仮に週5日、朝から夕方まで(学校と近い時間帯で)子どもたちを預かる場合、この金額では、十分なサービス内容の提供や、十分なスタッフの確保が難しいことは、容易に想像ができることと思います。「フリースクールが高い」(費用負担が大きい)というイメージがありますが、フリースクールの運営面から考えれば、月謝は驚くほど安く設定されており、経営状態が厳しい団体がほとんどです。

元々の成り立ちから、フリースクールは、慈善事業的な概念が強く、高額な学費を取ることに對して抵抗を持っている運営者も多く居ます。しかし、運営面を考えると、FISでいただいている学費まではいかずとも、現状、全くの補助がない状態では、ある程度の費用を頂かなければ、事業を継続して行くということは難しい状況です。

FISの学費は非常に高額ですが、運営(定員10名)を考えると、決して高くない(逆に人件費などを計算するとスタッフの給料が安い)ということがわかります。

②スタッフ(人材)の問題:継続したサービスを提供するために

継続したサービスを提供するためには人材を確保しなければなりません。しかし、人件費が十分に確保できない場合には、ボランティアスタッフ、もしくは、安価な費用で人材を確保するしかありません。

安価な予算や、ボランティアでスタッフを雇う場合、十分なサービスの提供ができなかったり、良い人材であっても継続的に関わってもらうことが難しいため、場が安定して

いきません。

FIS のスタッフは、基本有給で雇用していますが、それでも十分な給与を支払っているわけではありません。子どもたちの未来のために力を貸してくれる人たちに支えられ成り立っています。

合わせて、スタッフの育成も非常に大きな課題です。

アンケート結果でも前述しているように、利用者からは、スタッフの質、子どもへ対応の質が必須で求められます。費用面、教育等、良質な人材を継続して確保し続ける仕組みを持っていなければ、質の高いスタッフを継続的に確保し続けることは難しい状況です。

③“質”の問題:“質”の高いサービスを提供する:

不登校の数がどんどん増えている背景に伴い、フリースクールも増加しています。

しかし、フリースクールには、特に規定もなく、設立して行くことが可能です。

前述したように、フリースクールの月謝平均を鑑みると、質の高い人材と、サービスを提供してくるのは、仕組み上難しいのが現状です。

そんな中で、どんどんフリースクールが増えていくと、質が不十分なフリースクールが乱立してしまうことを懸念しています。

◆FIS からのラストメッセージ[今後への展望]

私たちは【多様な学びの場である“質”の高いフリースクール】を増やしていきたいと考えています！！

公立小学校に行かず、多様な学びの場を選択できることは、子どもたちにとって可能性でしかありません。しかし、その可能性を広げていける学びの場が、今はあまりにも少ないと感じています。

社会全体として、フリースクールの概念を構築し、子どもたちの可能性を広げていく社会を作っていけるよう、活動を広げていければと考えております。

◇ FIS からできる社会へのアプローチ

FIS では、保護者の方々へも学びの場を提供しております。保護者が学びを深めていくことは、自分自身の子どもへの理解が深まることはもちろんですが、現状の子どもたちの教育の問題にも理解を深めていくことにつながります。

子どもたちへの教育課題を認識した大人が増え、その問題に対する意識を変えていくことができれば、その理解は、社会への転用へともつながっていくと考えます。

FISに関わる大人が意識を変えていくことで、その周りの社会への影響を与えられるようになり、より多くの社会の中で困っているご家族たちに情報を届けられるようになっていきます。事実、FISの学びに感動された方々がFISの学びを深められ、FISの情報を発信してくださることで、たくさんのご家族がFISに触れてくださり、生活が変わっていく様子を体感しています。

FISに通学できる子どもたちは、本当に一握りです。なので、その環境に感謝し、この教育の素晴らしさを、外部にも発信し、一人でも多くの人たちに子どもたちの可能性を広げていけることを伝えていくことが、私たちFISに関わる大人の使命であると考えています。

今後とも、教育委員会の皆様とは、継続してこの課題に共に取り組み、子どもたちの多様な学びの環境を提供し、子どもたちの未来を変えていける一助になればと考えております。